

光の子

発行／社会福祉法人 光の子どもの家
 編集／光の子 編集委員会
 〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277
 TEL／0480-72-3883
 振替／東京3-128022
 印刷／社会福祉法人 共愛会

すべての子どもに！



絵・中島 英子

もともとこれは各都市国家間の平和と人々の災害を除くことを願つての宗教行事であつた。紀元三九二年、ローマの皇帝テオドシウス一世がキリスト者となつたとき、この競技は中止を命じられた。一八九二年復興して今日に及んでいる。

紀元前八七七年頃から行われていたギリシャのオリンピック競技は、パウロももちろん知っていたであろう。

信仰生活を競技にたとえてい

る「後もの」とはパウロにあつては、かつての律法の世界のこと

を努めている。と現在の心境と決意のほどを申し送つてゐる。

パウロがピリピ人らに手紙を書いたのは彼の晩年である。

三十年ほどのキリスト信仰生活を続けて、なお完成したとは思つていない。後のものを忘れ、前のものに向つて走り、キリストによる救い即ち神の与えたもう賞を得ようと、ただこの一事を努めている。と現在の心境と決意のほどを申し送つてゐる。

競技者たちはあの真剣な目ざし、歯を喰いしばり、歪んだ顔、荒々しい呼吸、苦しみの中で己と戦い、耐え努め勝利をめざして競うのである。

競技というギリシャ語 $\alpha\gammaω$ （アゴーン）は苦しみという意味をもつてゐる。同系のアゴニアが英語の agony である。われわれは先頭集団で走つてゐる者らのあの苦闘に満ちた顔だけに拍手を送るのではない。この人々が戦いとるであろう栄冠を期待して、声援を送るのである。

参加することに意義があるといふのは今日的思考である。競技者は苦闘しながら勝利に向かつて走り続けるのである。われわれ信仰者に地上での完成はない。

信仰の全き勝利はキリストに

この一事に努める
(ピリピ人への手紙 第三章十二節)

理事長

福島 勳

監修

パウロの時代、競技の種目は多くはなかつたが、短距離競走は最初からものであつたようだ。

競技者たちはあの真剣な目ざし、歯を喰いしばり、歪んだ顔、荒々しい呼吸、苦しみの中で己と戦い、耐え努め勝利をめざして競うのである。

競技というギリシャ語 $\alpha\gammaω$ （アゴーン）は苦しみという意味をもつてゐる。同系のアゴニアが英語の agony である。われわれは先頭集団で走つてゐる者らのあの苦闘に満ちた顔だけに拍手を送るのではない。この人々が戦いとるであろう栄冠を期待して、声援を送るのである。

よって与えられ「善かつ忠なる僕よわが喜びに入れ」(マタイ二五・二二)との祝福にあづかることである。

今年二月にノルウェーのリハーナンメルで行われた冬季オリンピックでは、日本は、金一、銀二、どう二個の栄誉に輝いた。つれづれにTVを見て、早いとか遅いとか、上手とか下手とか第三者的勝手な批判をしたものが、選手各人の血の出るような練習と鍛錬を思うと、結果はどうであれ、自ずと厳肅に頭の下がる思いがする。

われわれの光の子どもの家も創立以来早十年目を迎えた。神の尊きと多くの方々の支えによって、今日まで歩み来たことと共に感謝するものである。

しかし、もちろん完備し、完全に使命を果たしたとは、おくびにも出せない。

よくやつたとか、何をしているのか、とかの世評の一喜一憂することなく、ひたすら神の与えられる勝利の祝福をめざして、苦闘しながら、この使命の達成の一事を努めたい。

私は東京芸術劇場が好きだ。理由は簡単である。先ず、交通の便がよい。電車でも車でも家から一時間ちょっとで行ける。それに建物が新しい。新しいというのは、新しく作られたといふだけではなく、新しい考え方で作られている、という感じが何となくする、という意味である。

大ホーリー、中ホーリー、小ホーリーと揃っているし、ギャラリーやレストランなどもしゃれている。正面から入ると、あの大空間が良い。それに急勾配のエスカレーター、そしてその到着点の天井に大きな絹谷幸二の絵。下を流れる人工の滝の音を聞きながら急傾斜を上っていくと、私は日常から隔離されて、少なからず恐怖感と共に、わくわくする心を抑えることが出来なくなるのだ。

四月のある日、私はその東京芸術劇場の切符をもらった。開演が七時だから勤めが終わって

養護施設光の子どもの家は十一年目を迎えました。施設の事業開始は七月一日ですが改めて身の引き締まる思いです。

今年度から高校生五、中学生八、小学生十七、計三十名となりました。発足当初は幼稚園児が最多で十二名を数えました。十年の歳月はそのまま中高生を中心とする年齢構成に押し上げました。来春は、高校を卒業する二名がいよいよ社会に出発することになります。

このような中で、「母親は家庭であり、父親は社会である」とのたとえが実感を持つて迫ってきます。この真意は、子どもたちの養育において、母親は愛情と受容でしっかりと受けとめ、父兄は社会に通用する価値観を権威をもって示すことにあります。

養護施設光の子どもの家は居住型生活施設であり、発足当初からの職員は子どもたちの幼少期からの成長過程をともにしています。このため、愛情と受容的な関わりが養育といえるものなのです。賛賛と叱咤激励の真剣勝負なのです。彼らが、自分の全てを自己受容しつつ、現実に立ち向かい、かつこれを切り拓く力を育むものであります。

原哲男氏に聞かせたら怒られてしまいそうな話ではある。四月一日エイプリルフールの日に、小学生に眼をかけてくれ、引き立つててくれた私立大の内科の教授の退官記念祝賀会が東京のさるホテルで行われると言う案内を聞いた。ところが間近になっておいた。ところが内定し、ご旧友の一人が、国際環境・熱帯医学という長い名前の講座の教授に就任することが内定し、ごく親しい者たちだけで東京でお祝いの会を開こうという話が持ち上がった。当然にも私は三月三一日、ないし四月二日の日付を強く希望したが、皆の都合のつくのは三日（日）夕方ということで押しきられてしまった。

日
誌
抄

一月五日～
三月三日まで

- 一月五日 お正月気分をぶつ飛び、今年もがんばろう会。帰省や、光の子どもの家に残つて大人と楽しいお出かけなどを終えた子どもや大人全員が揃つて、今年の抱負や願い、決意や希望などを語り合う。茨城から荒巻さんとケンちゃんが駆けつけて腹話術と手品で楽しいひととき。初めてお正月を迎えたサッチャンもノリにノッてる。
- 七日 関東商事の栗原さん、今年もお励まし。感謝。
- 十三日 数年前から子どもたちと職員数名に絵画教室でご指導下さっている加須市の木葉会コヤノ亨先生より子どもたちに絵筆のお年玉。感謝。
- 十六日 日本キリスト教団東大宮教会壮年会が光の子どもの家に高校生が誕生して以来教育費のお支えを目立たないよう配慮してこの月も。感謝。
- 十七日 県立養護施設「いわつき」より見学と交歓に。
- 十九日 所沢児童相談所より子
- 七日 町内の江守ヘヤーロンより総出で調髪のご奉仕。
- 十八日 数年前に家庭引き取り

どもの状況の確認と情報の交換と養育についての協議。

二三日 高山嬉の父、七七忌。

病気の母の今後や嬉について父の勤務していた会社側と母のアパートの隣人とで協議。

会社は父が残した債務の整理と葬儀一般と母の生活について責任を持つ。嬉の養育と母の生活指導について光の子どもの家がこれまで通り担当する、などを確認。母のアパートの隣人宇津木氏ご夫妻の母の生活のお世話をザラリと申し出に感動。

二九日 蓮田市の諸貫香恵子さんが光の子どもの家のためのコンサートを全く自発的に自力で開催してご招待下さり、お支えを。ヴァオランティアの原点の健在を讃え心から感謝。

三〇日 日本キリスト教団岩槻教会青年会十数名が来訪。子どもたちと楽しく。感謝。

二月六日 次年度事業計画を子ども一人一人の年度にわたる取り組みの反省をして開始。

二月六日 次年度事業計画を子ども一人一人の年度にわたる取り組みの反省をして開始。

三月一日 養護施設ホザナ園より来訪して見学と交歓。

三月一日 都立品川景德学園より六名が来訪して研修。(くら)

の研一の養育相談が父より。十九日 研一が父と来訪してこれまでの生活と意識について語る。だからこれからどうするか!考えて考えて。。。涙して決意し、父と帰る。懸命に生きる父子に祝福を!。

○第三七回理事会。最終補正予算案の承認と十周年記念事業について審議。

二二日 川越児童相談所より子どもたちの状況の確認と情報の交換と養育についての協議。

二二日 厚生省の新規事業「養護施設分園型自立訓練事業」の申請を県児童課へ。

二三日 養護施設若竹ホームより来訪して見学と交歓。

二七日 郡山市に開業し子どもたちの精神医学に精力的に取り組む菅野クリニックの菅野博士と婦長さん來訪して子どもの診断と関わりの処方を。新年度の計画に向けて強力援護。

二月一日 養護施設ホザナ園より来訪して見学と交歓。

二月一日 福島県立会津短期大学で菅原が講演。

三月一日 都立品川景德学園より六名が来訪して研修。(くら)

反
射
光

園庭の大椿の枝々に一気に若い緑が芽吹きます☆

混沌とした不透明な世紀末現象は新しい世紀の産みのための混乱なのでしょうか☆子どもたちの特に思春期の混沌と不透明は新しい次の成長のためのエネルギー源と考えると希望がもてます☆そんな思いで十回目の年度を始めました☆いよいよ高校三年生になり社会への旅立ちが現実のものとなります。それにしまって^は普通との偏りを感じてしまう暮らしと思考と行動などの様式です。このままでは社会で仲間から外れる心配だけが日々に殖えます☆そんな心配を打ち消したくてこの年度からアパートでの生活を一担当だけですが始めました。国の制度は横割りで年齢構成ですが、ぎりぎり縦割りに近い構成で☆そんなこんなで人件費獲得のため、^は普通から限りなく偏ったバザーを計画しました。この地域に密着しこの地域の学校に通う子どもたちの負担にならないよう細心の配慮をしながら☆乞うご支援!

(哲)